

過疎の未来～過疎地域の特徴から考える～

社会班: 大黒 瑛心、中松 諭志、原 志有、新森 茉彩里、越牟田 和紗

Abstract

In this study, we conducted a literature review and an e-mail survey of municipalities with the aim of identifying the conditions for the development of depopulated areas. Depopulated areas are regions where regional vitality has decreased due to population decline, and depopulation is currently progressing nationwide in Japan. From the literature review, it was found that many regions have implemented depopulation countermeasures, but without much success. Therefore, we actually sent email questions based on the literature review to Kimino Town, Wakayama Prefecture; Shiso City, Hyogo Prefecture; Ayabe City, Kyoto Prefecture; and other cities to investigate conditions for the development of depopulated areas. As a result, we came to the conclusion that the relationship between the government and residents is essential for the development of depopulated areas, and that it is important for the government to take initiatives to increase residents' interest and for the government to be close to the community.

要約

本研究では、過疎地域が発展するための条件を明らかにすることを目的に、文献調査および市町村へのメールによる調査を行った。過疎地域とは、人口減少により地域活力が低下した地域であり、現在日本では全国的に過疎化が進行している。文献調査から、多くの地域が過疎対策を講じているがあまり成果は得られていないことが分かった。そのため、実際に和歌山県紀美野町、兵庫県宍粟市、京都府綾部市などに対して文献調査を元にメールで質問を送り、過疎地域発展のための条件について調査した。その結果、過疎地域発展には行政と住民の関わりが不可欠であり、住民の関心を高めるための取り組みや、行政の地域に寄り添った対応が重要であるという結論に至った。

1. はじめに

現在日本では過疎地域の増加が問題となっている。過疎地域とは人口の著しい減少に伴い地域社会の活力が低下し、生活環境などにおいて他の地域より低い位置にある地域のことである。総務省のデータより2022年現在の日本の過疎自治体の割合の推移は5割を超えていることがわかる。過疎化の進行により、空き家増加による犯罪率の増加、医師不足、産業の衰退など多くの課題が生じる。本研究では先行研究との相異点を知ること、それぞれの過疎地域においてどのような条件下であれば地域の発展に成功するのかがわかるのではないかと仮説を立て、調査した。

2. 研究方法

過疎地域が発展するための条件について文献と各市町村へのメールを通して調査した。発展しているとは、自立的に地域活動を実施できていることとする。

《調査1》

大都市までへの距離などの点において、先行研究で取り上げられていた過疎地域に近い条件である和歌山県紀美野町、兵庫県宍粟市、神河町、京都府綾部市の過疎地域持続的発展計画を読み、過疎地域が抱えている問題について調査した。

《調査2》

過疎地域持続的発展計画を読んだことで生まれた疑問や市の展望などを伺うために、それぞれの市にメールを送信。過疎地域持続的発展計画とメールの返答内容を先行研究と比較し、過疎地域が発展するための条件を調査した。

〈メールでの質問内容〉

- ①財源の使い道について
- ②行政と地域住民の関わり方について
- ③地域住民の過疎問題に対する関心度について
- ④周辺地域との関わり方について

3. 結果

〈調査1〉

各市町村における文献調査を行ったところ、多くの過疎地域で過疎対策の法律に準拠し、過疎地域持続的発展計画を作っている一方で、ほとんどの地域では具体的成果が挙げられていないことがわかった。

しかし過疎地域で発展に成功した地域に関する先行研究があり、発展した要因としては行政の制度などにより地域活力が向上し、地域住民の連携がとれているからだと考えられていた。文献調査や先行研究から発展した地域の特徴を捉え、その中でも住民の意向と行政の連携について注目し調査2へと繋げた。

〈調査2〉

和歌山県紀美野町、兵庫県宍粟市、京都府綾部市から回答が得られたが、兵庫県神川町からの回答は得られなかった。

兵庫県宍粟市、京都府綾部市では住民の過疎化への関心が高く、和歌山県紀美野町では過疎への関心度にばらつきがあったことがわかった。よって過疎への関心度は地域差があると言える。

また、関心が高かった2地域ではこれからは地域資源を活かした観光に力を入れ、ばらつきがあった紀美野町では地域のイベントを開催して住民に地域への関心を高めるための政策をする予定であることがわかった。

4. 考察

先行研究とそれぞれの市へのメールの結果の共通点から、過疎の発展には地域住民と行政の協働が非常に重要であり、住民の過疎に対する関心度、行政の地域の行動を見極める力が不可欠であると考えた。

また、仮に住民の関心度が低かった場合、まず関心をもってもらえるような行事やイベントで働きかける必要があると考えた。

5. 結論

先行研究から地域住民が過疎問題について行動する姿勢が大切だと結論づけていた。さらに回答が得られた自治体でもまずは地域住民に過疎に対する問題や自身が住んでいる地域について関心を持ってもらうことが大切だと考えられており、そこから過疎問題解決のためには地域住民の協力が不可欠だと考えた。そして、過疎問題解決への第一歩として、行政が地域住民に対して積極的に現状を発信し地域住民の危機感、関心を高めることが最重要であると考えた。また、地域住民が関心をもったあとも、行政が住民の要望や意欲に沿うように行政が行動を見極め、働きかけることも大切なことだと考えた。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- ・山下良平、星野敏、九鬼康彰(2010)。「条件不利地域における内発的発展の要因と推進体制～京都府舞鶴市杉山集落を事例として～」
J-Stage.https://www.jstage.jst.go.jp/article/arp/28/Special_Issue/28_Special_Issue_375/_pdf/-char/ja,(参照 2024-10-2)
- ・和歌山県海草郡紀美野町.紀美野町過疎地域持続的発展計画.2025-03-31.
<https://www.town.kimino.wakayama.jp/material/files/group/4/kiminotyokasokeikaku.pdf>,(参照 2024-10-02)

・兵庫県宍粟市.宍粟市過疎地域持続的発展計画.2024-03.

<https://www.city.shiso.lg.jp/material/files/group/69/kasokeikaku0603henkou.pdf>,(参照
2024-10-02)

・京都府綾部市.綾部市過疎地域持続的発展計画.2025-03.

https://www.city.ayabe.lg.jp/cmsfiles/contents/0000005/5371/kasokeikaku_5th.pdf,(参照
2024-10-02)